

ため池の改修

ため池には、かんがい用水を確保するほか、大雨を一時的に貯めて洪水を調整したり、土砂流出を防いだり、自然環境の保全や憩いの場を提供するなどさまざまな機能があります。これらの機能を維持・向上させるため、また老朽化に伴う決壊防止などのため、ため池の改修が行われています。高松市の三郎池と今治市の鹿の子池の例をご紹介します。

■三郎池（香川県高松市）

三郎池はもともと三谷池と呼ばれていましたが、修築拡張され、満濃太郎、勝間次郎について三谷三郎と並び称されたために、三郎池と呼称されるようになりました。三郎池は、寛永3年（1626）の干ばつを契機に翌々年の寛永5年に築造され、その後享保16年（1731）など数度にわたって改築が行われてきました。近年では昭和6年3月竣工の県営事業で堤体嵩上げと樋管、洪水吐などの増改築が行われ、貯水量の増大が図られました。それから50年ほどを経て老朽化が進み、堤防、底樋、余水吐等から漏水するとともに、堤防前面が波浪浸食され危険になったため、昭和57年から県営大規模老朽ため池等整備事業が行われ、平成3年3月に竣工しました。<讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000年、県営三郎池改修工事記念碑の碑文>



■鹿の子池（愛媛県今治市）

鹿の子池の創築は不詳ですが、元和6年（1620）領主加藤嘉明が行った古谷村の検地帳にカノコに池があったことが載せられています。それから約150年後の明和8年（1771）に、鹿の子池の貯水量を倍増させるため、200m余の新堤を構築する拡張工事が行われました。労務は池かかりの住民が総動員で参加し、29年を要して寛政11年（1799）にようやく竣工しました。この改築により池がかりは干ばつの憂いから解消されました。その後、大正15年に災害による一部堤体復旧、昭和17年に堤体の補強などがなされましたが、築堤以来200余年を経て堤の老朽化が甚だしく、昭和58年に愛媛県により鹿の子池の改築工事が着手され、平成3年3月に竣工しました。<鹿の子池の沿革碑及び鹿ノ子改修記念碑の碑文>

